



人材マネジメントのジレンマが会社を変える

第3回 仕事か生活か？

厨子 直之

近年、仕事と仕事外生活（以下、生活）にバランスを図って働きたいビジネス・パーソンは増えてきています。いわゆる「ワーク・ライフ・バランス」（以下、WLB）のことでありますが、このテーマにもジレンマが潜んでいます。ワーク（仕事）かライフ（生活）かの選択です。

というのも、「バランス」という言葉は、天秤の重りの重い方を軽くすることで均衡を図るというニュアンスを含むように、WLB も一方（例えば、生活）を選択すれば他方（例えば、仕事）を犠牲にせざるを得ないという、トレードオフの関係が想定されることが一般的であるからです。そのため、WLB の重要性は認識しながらも、「うちの会社ではギリギリのマンパワーで回しているので、従業員に早く帰られたら困るな・・・」と WLB を推し進めることを手放しで喜べない経営者の方も少なくないはずです。

最近では、このような WLB のトレードオフを前提とした発想から、仕事と生活の両方を充実させるという「ワーク・ライフ・インテグレーション」（以下、

WLI）という考え方が提唱されています（『DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー』2015年7月号）。

WLI の正当性は、厨子研究室が2012年9月に沖縄県の美ら海水族館の観光客195名に対して実施した質問紙調査からも支持されています。統計分析の結果、第1に仕事の満足感と生活の満足感の間にはプラスの相関があることが確認されました。すなわち、仕事での満足感が高い人は生活での満足感も高く、その逆も当てはまるということです。第2に、仕事の具体的な進め方や時間配分を自分で管理できる職場で働いているビジネス・パーソンほど、仕事満足が高く生活満足も向上しているという結果です。

これらの結果から、WLB を一過性のブームに終焉させないためにも、①ワークとライフをまるで水と油かのような相容れないという発想からの脱却、②仕事満足度を向上させ最終的に生活満足に結びつけるうえで、仕事における従業員の自律的な意思決定を認めた職務設計に着眼することの重要性が示唆されます。

（ずし・なおゆき / 和歌山大学経済学部准教授）

第88回 わだい浪切サロン

和歌山大学・岸和田市地域連携事業

「世界一貧しい大統領」を生んだ小さくてもキラリと光る国 ～ウルグアイのあれやこれや～

話題提供者 内田 みどり （和歌山大学 教育学部 教授）

日時

2016年12月21日 水 19:00～20:30

場所

岸和田市立浪切ホール 1階 多目的ホール

人口、地形、位置、何もかも正反対に見えるウルグアイと日本ですが、実は意外な共通性もあります。小さくてもキラリと光る、この国から学べることもたくさんあるのではないのでしょうか。一緒に考えてみませんか。

わだい浪切サロンとは？

毎月第3水曜日（2月と8月を除く）の夜7時、岸和田市立浪切ホールで開催する mini 和歌山大学です。申込み不要、参加費無料。

お問合せ先：和歌山大学岸和田サテライトオフィス 〒596-0014 岸和田市港緑町1-1 浪切ホール2F

TEL & FAX : 072-433-0875

岸和田サテライト 検索